

TOKYO KAIKAN

「誰でも気軽に利用できる人々のための社交場」を目指し開場して96年。
財界や政界の要人、国賓をはじめ、世界的芸術家や作家など多くの文化人に愛されてきました。



初代本館外観（写真左）初代本館「大宴会場（ローズルーム）」（写真右）



新本館エントランス（写真左）新本館メインバンケット「ローズルーム」（写真右）

「社交」の中心には文化があった 文化人が愛する東京會館

東京會館が開場した翌年の1923年、音楽会の巨匠と名高い、ヴァイオリニストのフリッツ・クライスラーが帝国劇場での演奏会を終えたのち、東京會館で非公式の小演奏会を開きました。その様子は、直木賞作家・辻村深月氏の小説『東京會館とわたし』に描かれています。

「帝劇での演奏の後、東京會館の四階にあるバンケット・ホールで、小さな演奏会が行われたのだという。-中略-東京商工会議所初代会頭、財界人の澁澤榮一に、政治家の金子堅太郎。同じく政治家の加藤高明に後藤新平、江木翼、高橋是清、根津嘉一郎。清浦奎吾に若槻礼次郎。他にも財界、政界の大物が多く集うものだったそうだ。」

クライスラーの来日はこの時のみで、大変貴重な時間となりました。この小演奏会を皮切りに、多くの文化人が時を刻んできた東京會館。これからも様々な物語を紡ぎ続けます。

ワールドクラスの設備とホスピタリティを誇り、 レストラン・バンケット・ウェディングを有する複合施設

2019年1月8日（火）、新たに生まれ変わる東京會館は、東京駅・日比谷駅・有楽町駅・二重橋前駅の地下コンコースへ直結する抜群のアクセス利便性を誇る皇居の目の前、東京・丸の内エリアに開場。新規2店を含む8店舗のレストランとショップ、丸の内地区最大級となる2,000名様収容可能な大バンケット、皇居を一望できるチャペルや複数のバンケットルームを有する複合施設です。

私の味覚を育ててくれたのは、 東京會館の料理の数々

各メディアで、忘れられない味として東京會館のコンソメスープやカレーを紹介して下さっている森公美子氏。東京會館をこよなく愛して下さるようになった、そのきっかけとは？その思い出とともに、東京會館の魅力と、東京會館新本館に寄せる想いを語っていただきました。



森 公美子氏
1959年、宮城県出身。昭和音楽短期大学卒業。1982年「修道女アンジェリカ」でオペラデビュー。定評のある歌唱力と、魅力的なキャラクターで、テレビ、ミュージカル、オペラなどで幅広く活躍中。2014年「シスター・アクト〜天使にラブ・ソングを〜」で第40回菊田一夫演劇賞を受賞

味わいから丁寧な仕事が伝わる 黄金のコンソメスープ

東京會館が開催していた、料理教室に通っていたことがあります。特定のメニューを覚えるというより、「この料理はこうやってできるのね」と、謎解きをするような贅沢な時間で。私の舌を育てたのは、東京會館といっても過言ではないかも(笑)。中でもコンソメスープに感動しました。キラキラと黄金に輝くスープを食べた瞬間、深い味わいの奥からシェフたちの丁寧な仕事ぶりが伝わってくるようでした。このコンソメスープを超えるものは、未だに出会っていません。



いつか東京會館で、料理を ご馳走できるようにになりたい

2階にあったラウンジはよく、仕事の打ち合わせで使っていました。そこからはエントランスの赤いじゅうたんの階段が見渡せるのですが、階段で結婚式の記念写真を撮っているお客様を見るたびにこちらも幸せな気分になっていました。パーティやロッシニ、東京會館にはお気に入りの場所がたくさんあります。特に気に入りはメインバンケット「ローズルーム」。打ち上げ会場として初めて招かれたとき、その料理のクオリティの高さに惚れ惚れしました。目の前で焼かれるオムレツに、12種類の薬味が添えられたカレー、あまりの美味しさに何度も並んでいただきました(笑)。この空間に足を踏み入れる瞬間のワクワク感が大好きで、「いつかここを使えるような人になりたい」と思ったものです。東京會館でご馳走ができる人になりたいと頑張っ、今では故郷・仙台の友人や母を東京會館に招待して食事をすることも多く、願いがかなったこの嬉しさはひとしおですね。

キラキラした喜びを与えてくれる 最高のよりどころ

帝国劇場の舞台に立たせていただく機会が多いのですが、稽古期間から合わせると2~3か月という長丁場。時には疲れてしまい、「今日はちょっと上質なサービスを受けたいな、特別感を味わいたいな」という時に東京會館に訪れていました。すべてお任せでき、パーフェクトなサービスなので、私が悩むことと言ったら、メニューだけ(笑)。こんな幸せなことってありませんよね。東京會館のすごさや懐かしさは、全部舌で覚えています。日々いろんなことが進化する世の中ですが、東京會館には「Dear old friends」の精神で、これまで常連さんを満足させてきたものを忘れないでいてほしいですね。東京會館に出会わない幸せと出会う幸せがあると思いますが、出会う方が圧倒的に幸せ。素晴らしい料理に完璧なサービス、そして空間は、心の中や頭の中、舌の上にキラキラした喜びを与えるのですから！東京會館は、私にとって最高のよりどころです。

PICK UP!

東京會館との出会いの瞬間

森公美子氏が初めて東京會館と出会われたのは、今から36年前。帝国劇場で行われた「屋根の上のバイオリン弾き」に出演した時のことでした。座長を務めていた故・森繁久彌氏に誘われて訪れたのが東京會館。「アンサンブルメンバーとして参加していた私をなぜだか誘って下さって、“マロンシャンテリー”をご馳走になったんです」と森氏は当時を振り返ります。「うまいだろ」と勧められ、初めて食べたその美味しさに、大先輩である森繁氏に思わず「うんまい！」と言ってしまったほど。森氏が東京會館の虜になったのは、森繁氏が引き合わせてくれた“マロンシャンテリー”がスタートでした。



36年前、森繁久彌氏に勧められて食べた“マロンシャンテリー”が忘れられない味

MOVIE「あの方とのエピソード」

本ニュースレター「文化人が愛する東京會館」をテーマに、森公美子氏のインタビュー映像を交えたオリジナル動画を7月11日(水)より公開します。

<https://goo.gl/vvWvKl>

制作 有限会社柴田陽子事務所、
Co-arrows, Inc



今回は、そんな東京會館とあの方とのエピソードをご紹介します。

「あの方とのエピソード」(約4分)

文化人や国賓が行きかう東京會館

1922年の創業以来、「社交の殿堂」として名を馳せた東京會館。財界や政界の大物や世界的な芸術家にも愛されてきました。今回は、その中でも多くのエピソードを紡いできた文化人たちの物語や、皇室・国賓とのご縁をご紹介します。

■伝説の舞台、ローズルーム

能楽や日本舞踊など芸能に携わる方々とのご縁が多い東京會館。なかでも歌舞伎界と宝塚歌劇団と深いご縁があります。

9代目松本幸四郎氏（現・松本白鸚氏）の襲名披露の場としてご活用いただいたほか、東京會館85周年記念ディナーショーは中村吉右衛門氏に行っていたなど、襲名披露・後援会・結婚式等の場として多くの歌舞伎界の皆様にご指名をいただきました。

また、宝塚歌劇団の方々には、ファンクラブイベントや卒業時のパーティの会場としてご利用いただいています。初代「ローズルーム」で結婚式を行っていただいた越路吹雪氏は、そのご縁から、毎年クリスマスショーにご出演いただきました。それを引き継ぐように、現在では鳳蘭氏が毎年ショーを開催。また、2015年に二代日本館の最終日の舞台を飾ったのは、元宝塚トップスター6名によるゴージャスなショーでした。



宝塚歌劇団によるクリスマスディナーショーの様子

■作家・文芸家にとっての夢の場所

東京會館は、芥川賞・直木賞の記者会見や受賞式会場として長年利用されているほか、新田次郎賞、日本ミステリー文学大賞等多くの出版系授賞式の舞台となっているため、作家や文芸家にとって憧れの場所であり続けています。文学作品のモチーフとなることが多く、三島由紀夫著『小説家の休日』・山崎豊子著『華麗なる一族』・中島京子著『小さいうち』等の舞台になっています。2016年には、東京會館を舞台とした辻村深月氏初の歴史小説『東京會館とわたし』が話題となりました。

三島由紀夫著『小説家の休日』は、日記スタイルで語られる短章で、「不安を落ち着けるために、東京會館のカクテル・ラウンジでトム・コーリンスを吞んでから、第一生命ホールの楽屋へ行った。」等、幾度も東京會館を訪れた記憶が登場します。



三島由紀夫氏が愛飲したトム・コーリンスと二代日本館ラウンジ

■皇室、英国王室とのご縁

1952年、昭和天皇第四皇女順宮様と池田隆政氏のご結婚披露宴会場に選ばれ、民間で初めて皇族御宴会の荣誉を担いました。その後も今上天皇が皇太子時代には、外遊帰国歓迎午餐会を催されるなど、その実績と信頼から、国賓をお迎えするレセプションが飛躍的に増加。皇室、国賓、公賓のご宴会を筆頭に多くのVIPからの支持を得ています。

1971年、ロンドンの駐英大使館で行われた昭和天皇主催のリターンバンケットを、東京會館から派遣されたバドラーの岡野金作、永井三郎シェフが取り仕切りました。この2人は、1975年に、今度は二代日本館にて英国女王ご夫妻を再びお迎えし、歓迎午餐会を開催しました。



1975年 エリザベス二世陛下、フィリップ殿下歓迎午餐会開催

<本件に関するお問い合わせ先>

東京會館新本館開場PR事務局（株式会社サニーサイドアップ 内） 担当：伊東（070-3115-6481）

TEL：03-6894-3200 FAX：03-5413-3050 E-mail：tokyokaikan_pr@ssu.co.jp

HP：https://www.kaikan.co.jp/ FB：https://www.facebook.com/tokyokaikan/